



義經記

七八  
正



广史部  
4547



義經記卷才七月録

- 一 とうらん<sup>たうらん</sup>水園<sup>みづのゐ</sup>おちれ事
- 二 大津次<sup>おほつじ</sup>島<sup>しま</sup>事
- 三 あらら山<sup>やま</sup>れ事
- 四 三乃<sup>さん</sup>口園<sup>くちのゐ</sup>う<sup>う</sup>河<sup>が</sup>り<sup>り</sup>流<sup>なが</sup>る事
- 五 石<sup>いし</sup>いせん<sup>せん</sup>ト<sup>と</sup>涉<sup>わた</sup>せん物<sup>もの</sup>れ事
- 六 平<sup>ひら</sup>い<sup>い</sup>の<sup>の</sup>海<sup>うみ</sup>り<sup>り</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>美<sup>う</sup>津<sup>づ</sup>と<sup>と</sup>并<sup>なら</sup>ん<sup>ん</sup>う<sup>う</sup>ち<sup>ち</sup>な<sup>な</sup>る<sup>る</sup>事<sup>事</sup>
- 七 有<sup>あ</sup>ら<sup>ら</sup>え<sup>え</sup>の<sup>の</sup>浦<sup>うら</sup>お<sup>お</sup>て<sup>て</sup>た<sup>た</sup>ひ<sup>ひ</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>し<sup>し</sup>る<sup>る</sup>事
- 八 加<sup>か</sup>め<sup>め</sup>り<sup>り</sup>山<sup>やま</sup>と<sup>と</sup>津<sup>つ</sup>らん<sup>らん</sup>事
- 九 刺<sup>さ</sup>官<sup>くわん</sup>ひ<sup>ひ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>げ<sup>げ</sup>と<sup>と</sup>急<sup>いそ</sup>津<sup>つ</sup>つ<sup>つ</sup>さ<sup>さ</sup>の<sup>の</sup>事

義七



養徳記巻廿七

曰く とうらんお玉殿なり

文治二年正月乃事たりぬと云ふ六甲村友と云ふ東端

何よ思ひてわたりし時を又も思ひてわたりしに

思ひておんしりし時を思ひてわたりしに教の村官ありしに

人ありしに換へられしに養徳の民のつひにわたりし

人ありしに損じりしに思ひてわたりしにおんのやと

思ひてわたりしに今の奥列へ下りしに思ひてわたりしに

思ひてわたりしに十六人の一人も思ひてわたりしに

思ひてわたりしに奥列へ下りしに思ひてわたりしに

思ひてわたりしに思ひてわたりしに思ひてわたりしに

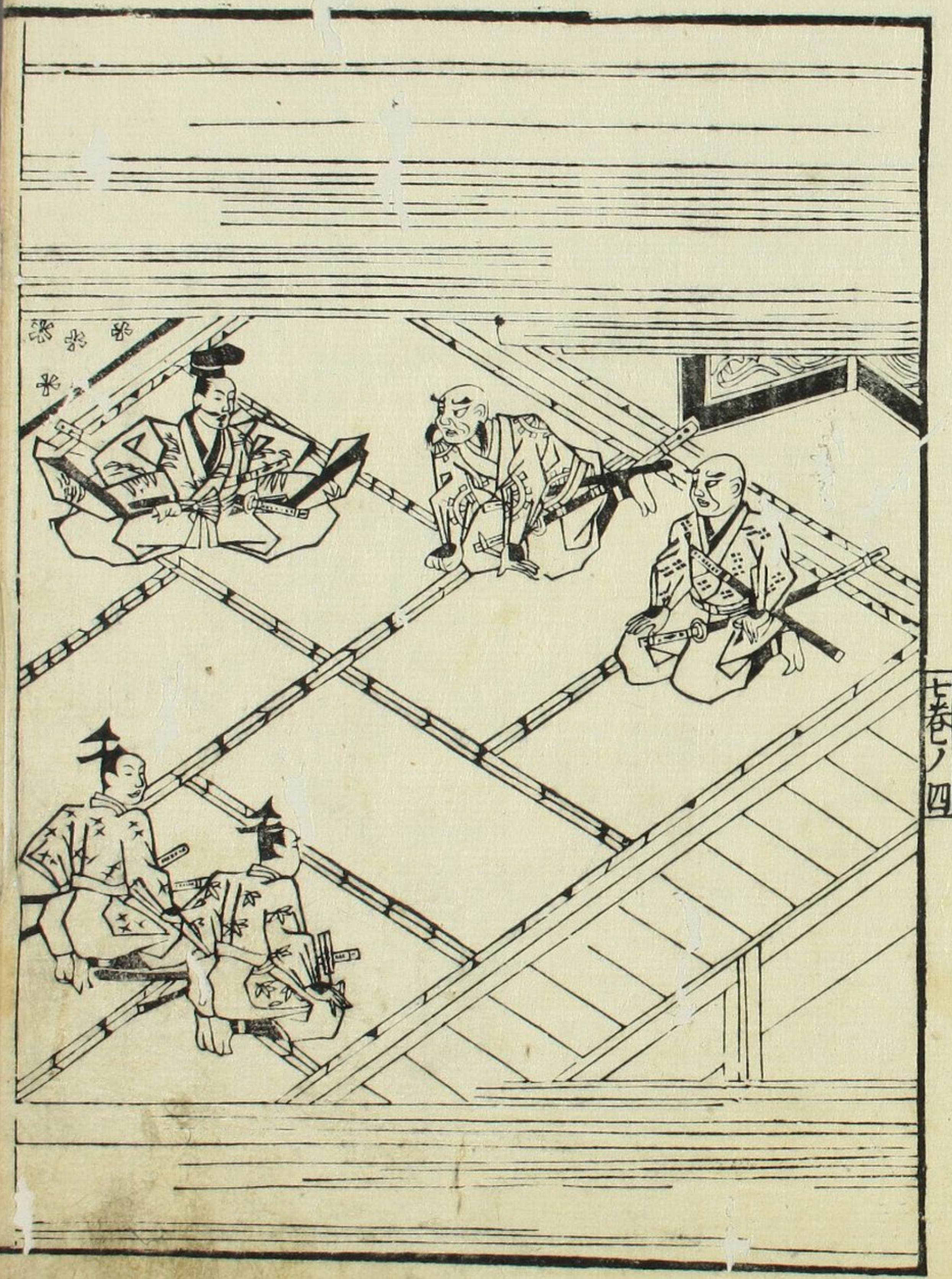
思ひてわたりしに思ひてわたりしに思ひてわたりしに

思ひてわたりしに思ひてわたりしに思ひてわたりしに

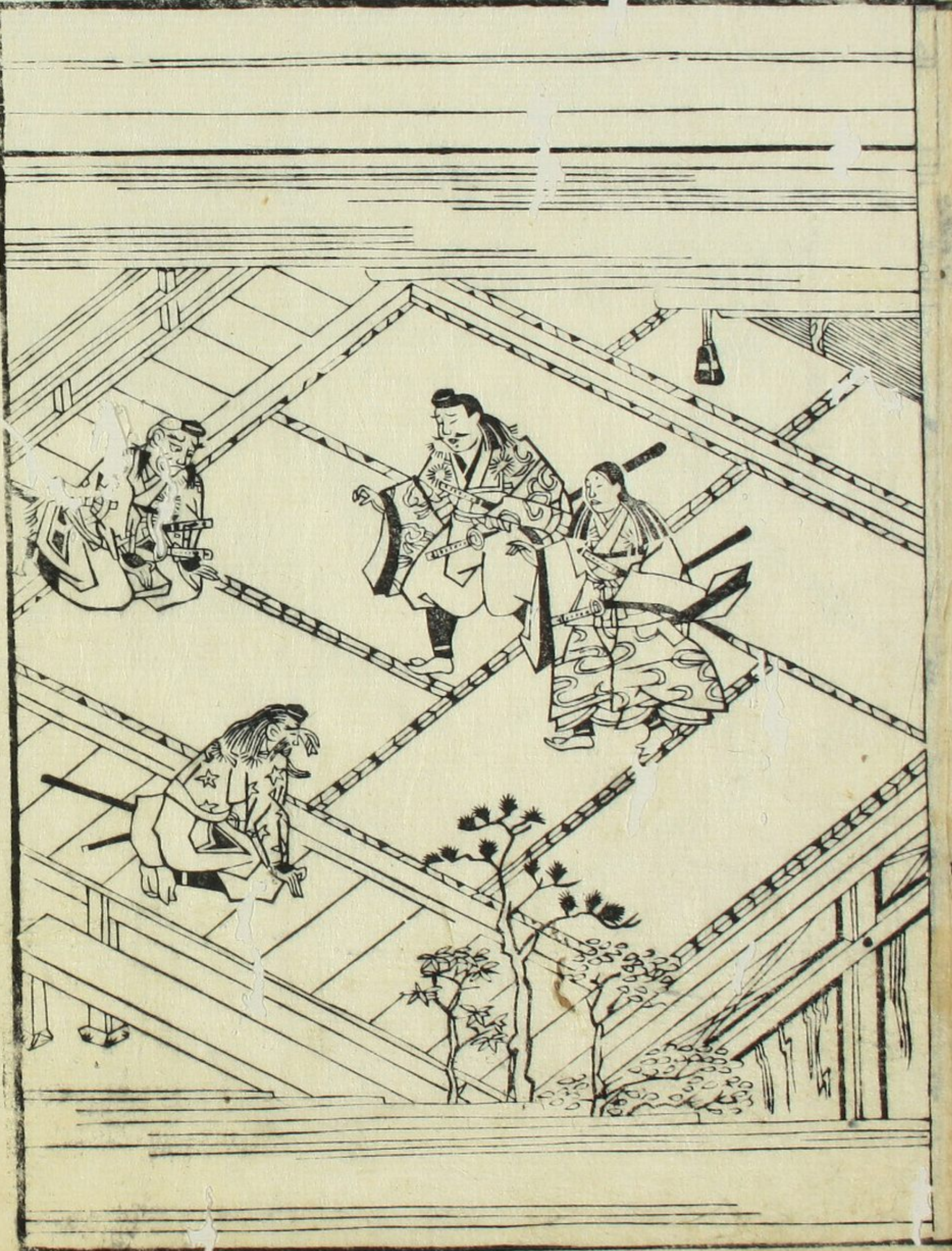




の後よからも腹腹をよとていからけりわづらひ出せり病を  
 とらふ月のよはは昔日二日二日なり。此の後の奥列より  
 らんくもたまりてわづらひもせり。いかにわづらひも  
 とるものもあらず。中なる候今たれば入るも  
 たまりてわづらひもせり。いかにわづらひも  
 下りてわづらひもせり。いかにわづらひも  
 下りてわづらひもせり。いかにわづらひも  
 下りてわづらひもせり。いかにわづらひも  
 下りてわづらひもせり。いかにわづらひも  
 下りてわづらひもせり。いかにわづらひも



七巻ノ四



たき。どひくけら。うん。まう。時ハ。女。房。を。ぢ。く。小。河。も。ま。せ。な。り。所。  
 まう。事。を。た。ら。む。ハ。よう。け。む。う。と。や。と。ま。る。が。た。り。を。む。い。し。お。  
 く。は。人。ハ。ハ。久。太。長。又。は。娘。君。か。あ。く。ち。く。太。長。又。は。ハ。  
 さ。く。ま。あ。く。ま。せ。娘。の。ぬ。十。三。あ。て。母。さ。け。う。さ。ま。さ。く。ま。  
 娘。の。ぬ。ま。は。め。の。と。は。十。三。拾。五。う。さ。ま。り。卵。は。乳。む。む。と。海。  
 一。ま。う。ま。す。う。さ。ま。ん。つ。り。く。く。水。持。少。く。わ。さ。く。せ。娘。の。け。け。は。  
 さ。く。十。六。此。水。う。ハ。う。す。う。な。る。水。す。海。底。な。り。し。を。い。り。新。風。  
 此。あ。う。り。ま。う。こ。の。君。は。お。か。ん。そ。め。ら。れ。系。く。せ。娘。の。い。し。よ。る。ま。  
 ま。う。こ。君。あ。う。り。卵。は。又。志。多。人。と。わ。さ。ら。せ。娘。を。ぬ。ぞ。う。ち。う。  
 ち。う。此。娘。ハ。松。又。ち。を。れ。く。な。り。新。三。娘。は。女。ハ。松。門。と。  
 又。離。れ。て。か。な。り。又。真。劍。へ。あ。ら。ま。い。る。と。し。も。怪。む。さ。く。ち。  
 ぬ。何。れ。の。女。を。見。せ。な。ん。と。さ。く。と。う。く。水。心。の。甲。と。す。の。を。  
 ま。う。お。わ。け。を。な。ら。ず。て。は。い。も。怪。む。ま。い。り。あ。げ。ま。う。ん。く。





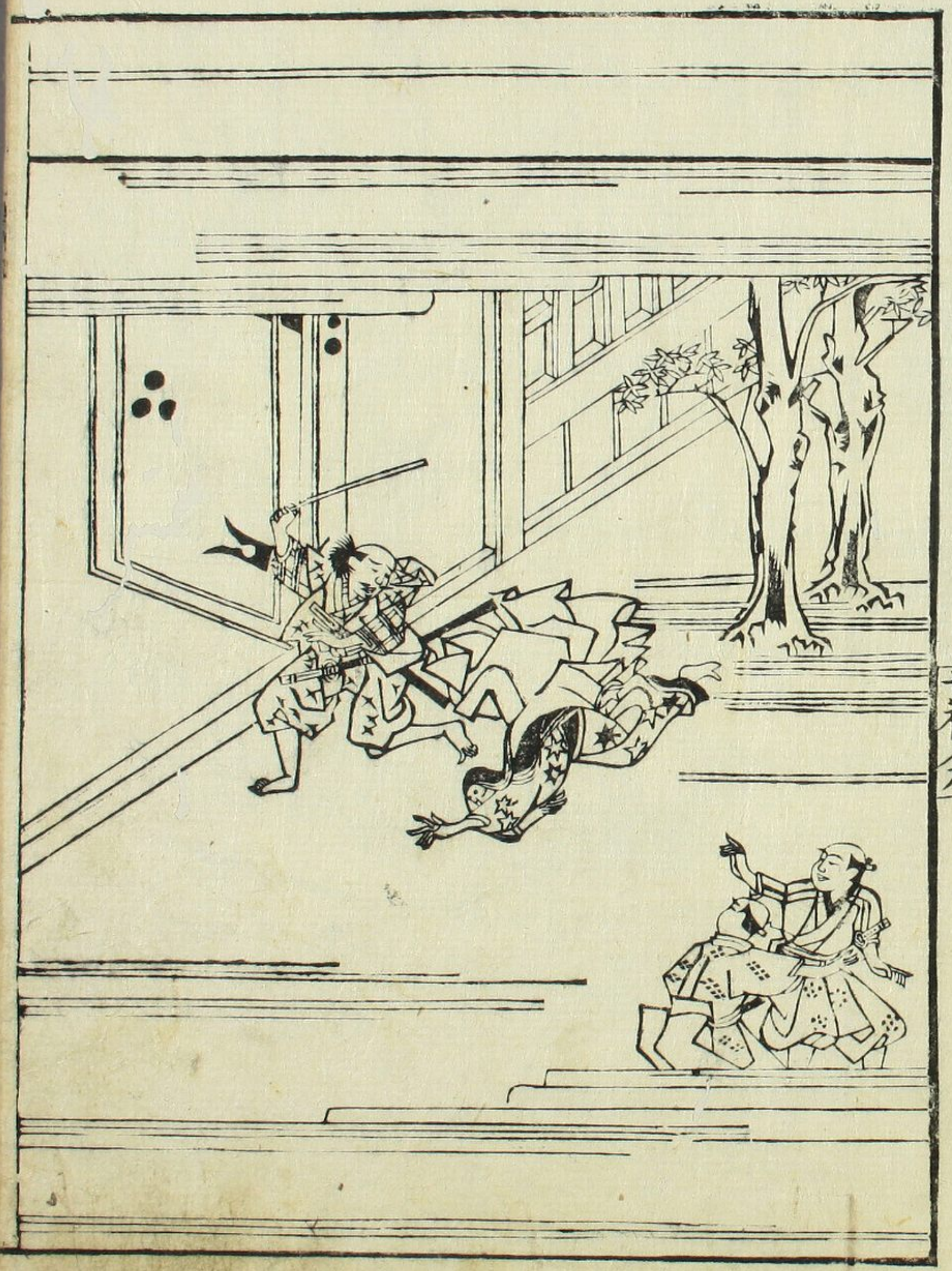


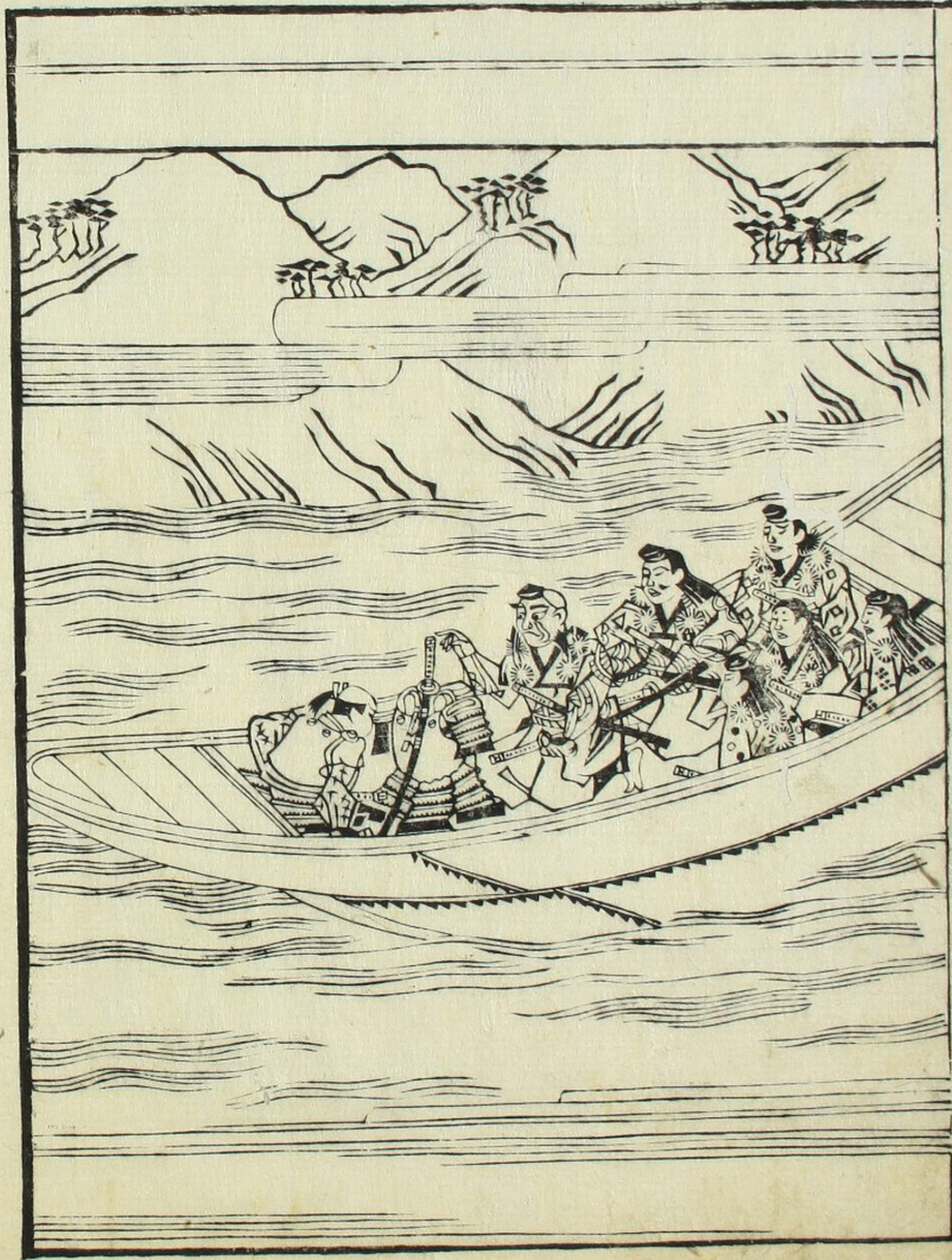




せりりたるは。誠よふおハ神も佛もまじゆなふこと。その  
 くち感うゑ乃種をぞらばりのひり。ゆきよふとせらるるそ  
 あゆませなむとせむ。いんちなるも。あはれをみハ。おとこ  
 りぞたけしける。たけしるも。あはれをみ。あはれをみ。あはれを  
 なぐりちなるも。すしめ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 江戸をぞ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 なまき。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 れども。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 うまけら。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 しなむ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 きる。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 ゆま守。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。  
 甲かて。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。あはれをみ。

七卷九





らんやとて。水さううまたせ給け目も。判友は修めは  
 つふ人の水名跡おくりねひあゝせゆへも。さらば  
 捨らばそへうなま。都乃をくならぬや。あふ  
 さゆ休してあまんと作らして。捨あまて。すくも給む。  
 けしとるびのひ。水人の水。あをさて。修らば  
 き。海は。さうり。修六道と。さ。さ。か。な。り。む。す。た。  
 さいり。ゆ。き。あ。く。い。は。く。い。ゆ。け。さ。そ。捨。た。ま。あ。ぞ。そ。て。  
 了。あ。を。た。て。く。う。ね。し。と。給。へ。む。う。又。き。ゆ。り。く。さ。く。い。  
 ち。り。き。る。あ。り。こ。は。ま。す。ま。そ。ま。り。修。ち。う。く。な。り。を。れ。む。  
 喜。れ。あ。ら。乃。あ。け。が。れ。よ。う。す。ま。に。ま。う。が。う。り。お。ひ。の。く。す。う。  
 う。に。あ。ま。ま。く。と。さ。り。う。り。さ。さ。く。給。ひ。て。ち。う。を。ん。く。  
 そ。は。ま。ま。ま。あ。

凡そ一修れ人の志くまらうあけさるる

じうのあうりぬひのうらむもかくぞつぎをたゆ  
 まうとてうらむすてゐるうと念のなまれあきけの夜を  
 かなくらんとくらく打をまれば。ああ夜の増地乃すをた  
 まうとて智のうとまうとてたふまうとてうらむのよあうと  
 言にわすれしまうとてうらむとてあまうとて感でれまうと  
 言ば。月のうげうとむうとかなうとて。あひひあひまうと  
 何ら目なる。朝れまうとまうとてうらむひくまりたむ。おの  
 かと都あうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとてひく  
 いとあはれはあひかてうとて。おはれまうとて  
 すまなれ一都とてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 ござりまうとて。うらむのうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 うらむとて。うらむのうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 けうひうらむとて。うらむとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて

うらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて

二 大津辺乃事

うらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 せうとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 てまうとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 斜のうらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 て。おはれまうとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 うらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 大津辺乃とてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 何のうらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 せうとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 うらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 うらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて  
 いける。是をうらむとてあうとてうらむとて。あうとてあうとてうらむとて









とんげんうぢまゝはさるゝはつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
んをりてはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
めづるゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
てはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
たふゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
あゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
はなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
あゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
のちはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ

三 **あゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ**  
判書いゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
なつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
うゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ  
あゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝはなつゝ

七巻ノ四





つまがんとてうごしてみらすとあぬらるれど。いそいで  
 ぐいそい。もの孫のまらうとをくへり。いほくもあつとゆるひ。  
 さうれあわらうなぐらうらなれあつとくが。いそいで  
 わられ山のいそいであぬらとあらうらぬ。いそいで  
 れらうとよおされぬ。いそいであつとあつとあつとあつと  
 けり。いそいであつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 大なるあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 やまめはあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 そいあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 わらうらあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 ぶとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと  
 このあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと





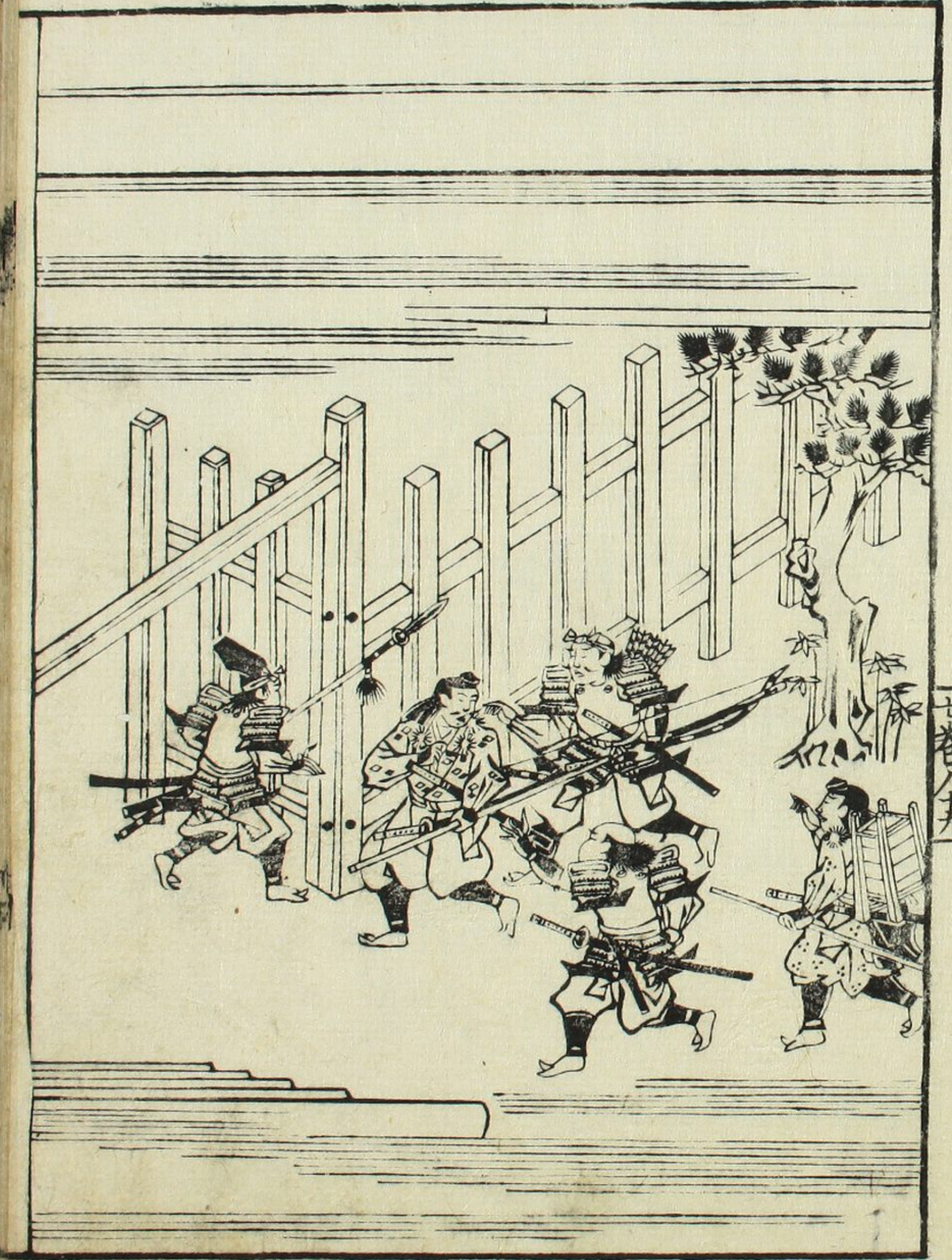
Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written vertically on the right page of an open book. It begins with a small header or title at the top right, followed by several lines of dense, flowing characters. The script is consistent throughout the page, suggesting a single scribe. The text appears to be a detailed narrative or a list of events, possibly related to a specific location or event mentioned in the text.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account. The text is written vertically on the left page of an open book. It begins with a small header or title at the top left, followed by several lines of dense, flowing characters. The script is consistent throughout the page, suggesting a single scribe. The text appears to be a detailed narrative or a list of events, possibly related to a specific location or event mentioned in the text.

Handwritten text in vertical columns on the right page, written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns on the left page, written in a cursive style.

信徳とくすなう人のいふ縁のどく陣井。あ井にさりかきんんこ  
 師をもあをそわの父町ならう一そさる。それのせうあ本  
 早もゆひのあつたれ。軍まりもきよきよもどあつた  
 久しされ百人から七人と申にうりこあつた。きしを判官あ後  
 りもまたたけあつた。いふた。もあさつたぬ殺し  
 うりもあつたあつた。これおれを判官あつた。いふた。あつた  
 を。あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 かうもあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 ござつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 友あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 たあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 いあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた  
 井上のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた













今も心も親友の天はさうのやあらはれよと云はらまてふ  
なりよきてまづわらうぬも是れ親友あくおんすくも  
えはとせんまもむとく大者世に此のせんも一  
門のまうがたりなれど此れは親友も山の上まも  
三百人の親友せしむりかざりやく親友ならよ  
だまそごとくもさうすよ人のあつらうかまそ  
友とおのこのあつらうすよかまそとあつらひ  
とまへん見つよのあつらひもくもさうまも  
あつらひもかまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも

いそうちまもていそうちまもていそうちまもて  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも  
かまそとあつらひもくもさうまも

いそいでいひなれどおぼえんよとていひくはるはゆふのあひひは  
あつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
ていふに井寺もあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
れいよもいひくはるはゆふのあひひは  
えそれだ。長使は井寺もあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
めてあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
女あつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
うたふあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
うあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
さうあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
のいひくはるはゆふのあひひは  
あつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
うあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは

いそいでいひなれどおぼえんよとていひくはるはゆふのあひひは  
あつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
ていふに井寺もあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
れいよもいひくはるはゆふのあひひは  
えそれだ。長使は井寺もあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
めてあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
女あつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
うたふあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
うあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
さうあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
のいひくはるはゆふのあひひは  
あつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは  
うあつたかたにまじりてくはるはゆふのあひひは

ておとせむらうすおねさごびよのついでに事りくる。つうめんはご  
 ちいさやうとびくさまんご。海をらぶくーらんさんとりー  
 海はあまあつくとおのさんご。ともんあまむけしお人のご  
 ちもあまがりくる。二人はごご。海はかくりなれど。あま  
 まりていせのへも。これだ。おのこ。さあ。やごよ。ゆひの  
 ちりく。出まあふ。おねあふ。海はあま。あまさん。一  
 やのひらね。あまのひらね。あまのあま。あま。あま。あま。あま。  
 海はうひりく。おま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 ありさう。はら。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 海はうひりく。おま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 せのうら。判友あふ。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 ありさう。はら。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 出づへん。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。

ざちるはとあま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 ていさ。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
 あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。あま。













ては、  
うまひへ  
上京又十ひき  
白く  
女房より下女  
おと  
時  
ら  
い  
として

これ  
うまひへ  
六  
ら  
ま  
つ  
つ















Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style across approximately 15 lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dense, flowing style across approximately 15 lines. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

残七

七



















七  
四十一  
Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written vertically and appears to be a formal or semi-formal communication.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It contains several lines of text, some of which are enclosed in a rectangular box. The text is written vertically and appears to be a formal or semi-formal communication.

裁

四十一



此のころの<sup>義七</sup>ころは<sup>四十七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>  
 P. <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>  
 れを<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>

義経記卷才七終



義経記卷才八月録

- 一 <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>
- 二 ひて<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>
- 三 <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>
- 四 <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>
- 五 <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>
- 六 <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>
- 七 <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>
- 八 <sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>ころは<sup>義七</sup>

義八

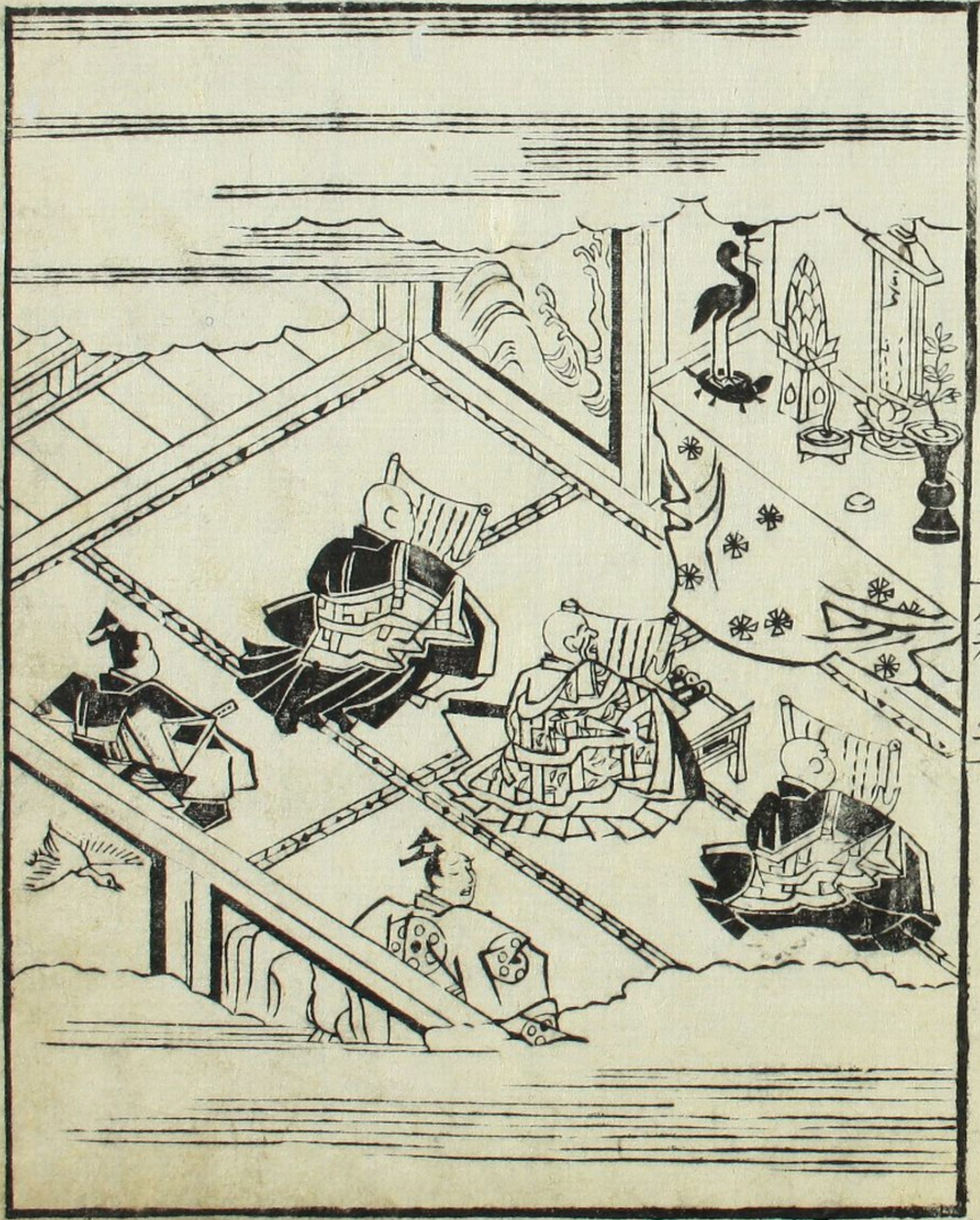


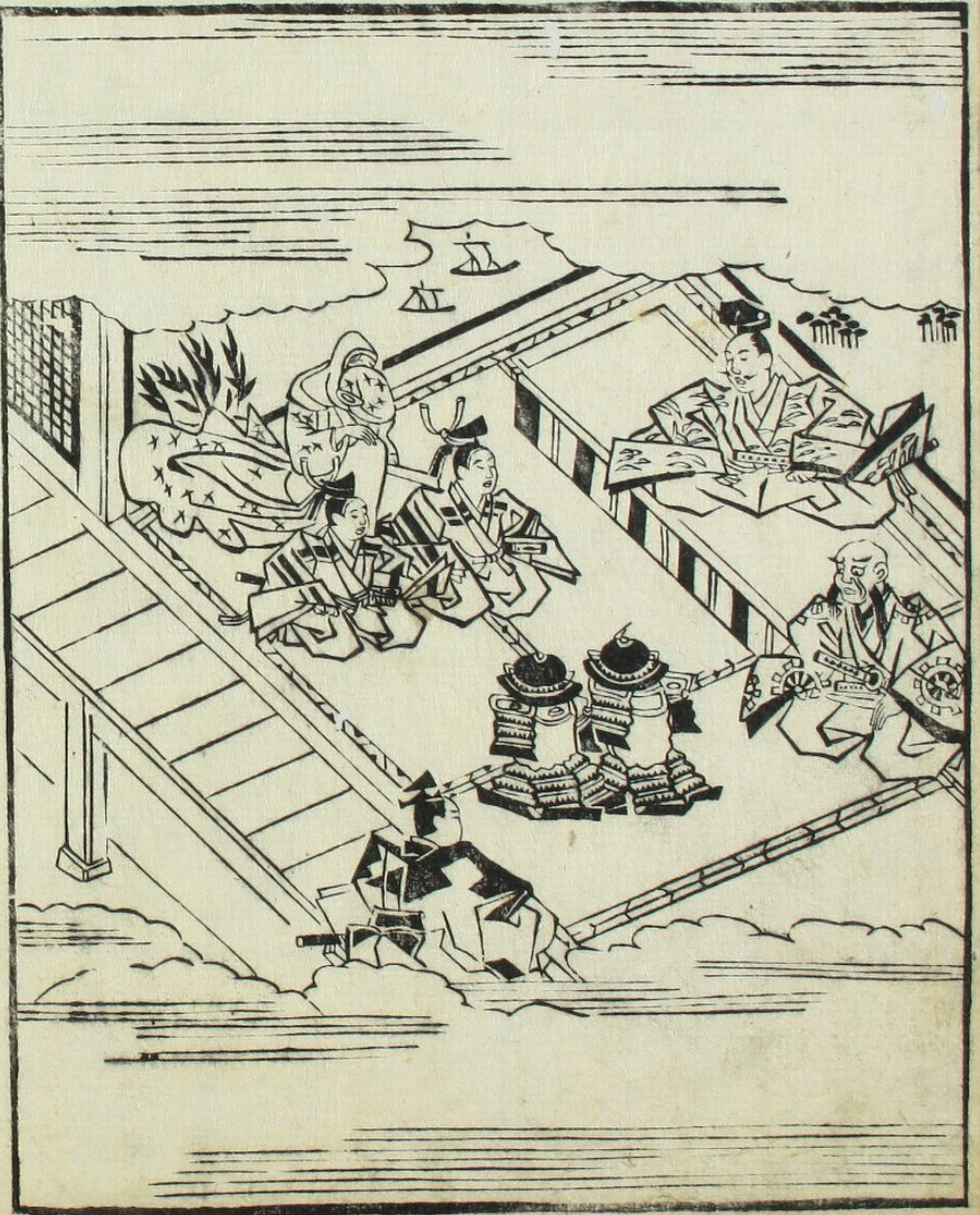
養老紀事卷八

一 ついでのおもむきなりぞいふまじりの  
 ちり給ふ村友あたふちりしむらに物を被らむ  
 引渡す家のさへもねむははひつるとされあはれ  
 ぬんこころひんとさるあつむしとさると給ふ  
 かにつきのふち給先事にあとさるるを給ふしは  
 物にむらさきほくしとすまを國あはれと給ふ  
 ちんたのせんせんよはりいふと給ふさうら  
 うよとてしるくんと被下るるを給ふさうら  
 うとてしるくんと被下るるを給ふさうら  
 しりしりしりしりしりしりしりしりしり  
 せらふらふらふらふらふらふらふらふら  
 けへてしりしりしりしりしりしりしり  
 けへてしりしりしりしりしりしりしり



こゝろへはかたし物なきをいふはひて平よをきき  
いふもくはうのくまの種とんがつかうのくまの  
と今一は木後(木)のくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの  
くまのくまのくまのくまのくまのくまのくまのくまの





せりぐみともはくへんせはなまうきせいのまたりあて  
 りかしのまじりて一は終るをいまへ一りあう  
 らで平よみやよはれくはれひんされ入道  
 プよしをわづかはれ入らよひもさきぎあさ  
 しひでむらさひてこの終へひく平氣もてが  
 とあまもあはれいせはあふこまき刺友はらんで  
 してのしりぞきたるいんこわづかのうまき  
 こまきさきよいめはあふくこのうまきこ  
 ひんもいれはのあまもなてまきもわづかひ  
 られたまかうもあはれいんこわづかのうまき  
 とあふすしからあはれのはれ袖すたあまも  
 こまきあふくひんこまきあふくひんこまき  
 こまきあふくひんこまきあふくひんこまき

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dense, flowing style across approximately 15 lines. Some characters are written in a larger, more prominent hand, possibly indicating emphasis or specific names. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. The text is written in a dense, flowing style across approximately 15 lines. Some characters are written in a larger, more prominent hand, possibly indicating emphasis or specific names. The ink is dark and the paper shows signs of age.





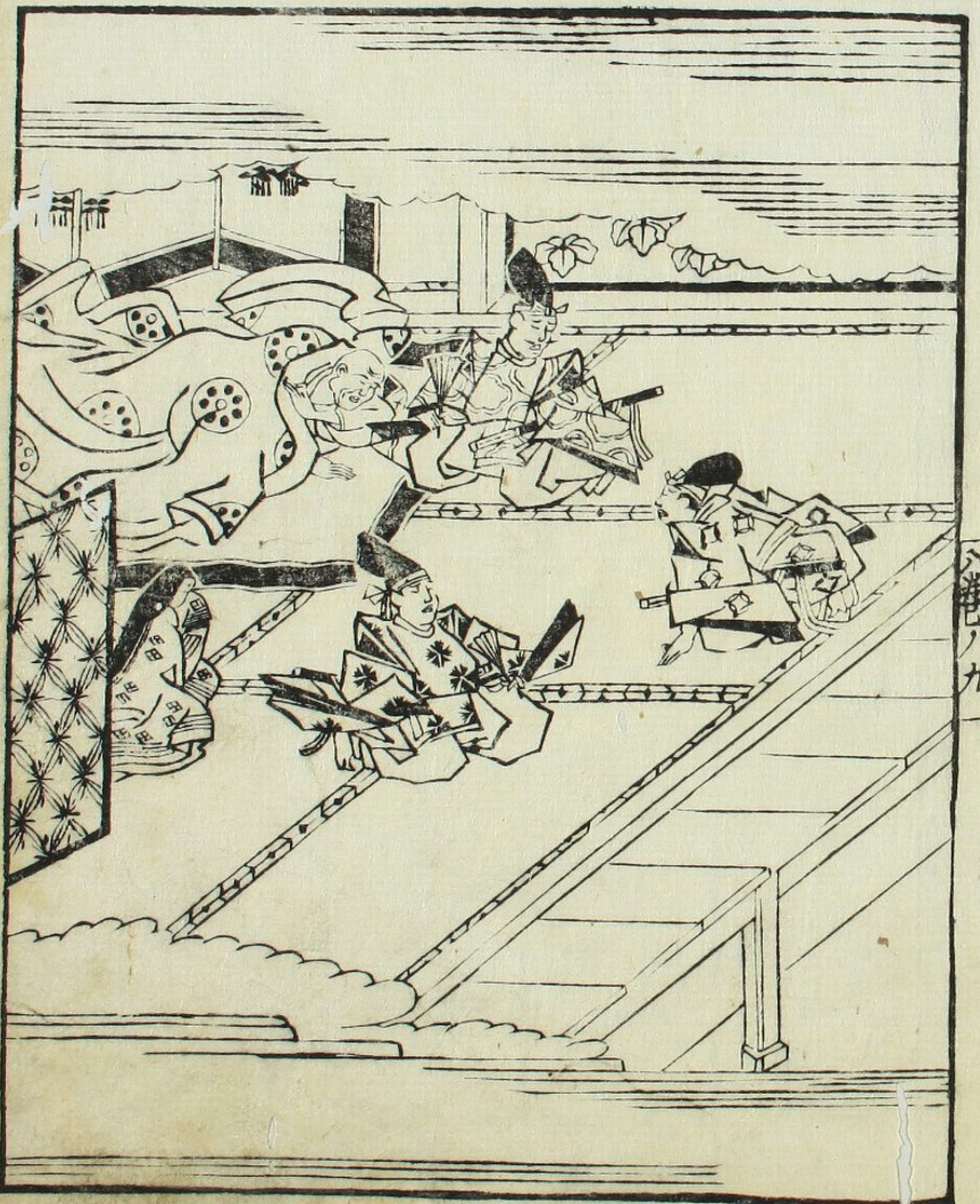








夫、よき事なり。一、好む事なり。二、好む事なり。三、好む事なり。四、好む事なり。五、好む事なり。六、好む事なり。七、好む事なり。八、好む事なり。九、好む事なり。十、好む事なり。十一、好む事なり。十二、好む事なり。十三、好む事なり。十四、好む事なり。十五、好む事なり。十六、好む事なり。十七、好む事なり。十八、好む事なり。十九、好む事なり。二十、好む事なり。二十一、好む事なり。二十二、好む事なり。二十三、好む事なり。二十四、好む事なり。二十五、好む事なり。二十六、好む事なり。二十七、好む事なり。二十八、好む事なり。二十九、好む事なり。三十、好む事なり。三十一、好む事なり。三十二、好む事なり。三十三、好む事なり。三十四、好む事なり。三十五、好む事なり。三十六、好む事なり。三十七、好む事なり。三十八、好む事なり。三十九、好む事なり。四十、好む事なり。四十一、好む事なり。四十二、好む事なり。四十三、好む事なり。四十四、好む事なり。四十五、好む事なり。四十六、好む事なり。四十七、好む事なり。四十八、好む事なり。四十九、好む事なり。五十、好む事なり。五十一、好む事なり。五十二、好む事なり。五十三、好む事なり。五十四、好む事なり。五十五、好む事なり。五十六、好む事なり。五十七、好む事なり。五十八、好む事なり。五十九、好む事なり。六十、好む事なり。六十一、好む事なり。六十二、好む事なり。六十三、好む事なり。六十四、好む事なり。六十五、好む事なり。六十六、好む事なり。六十七、好む事なり。六十八、好む事なり。六十九、好む事なり。七十、好む事なり。七十一、好む事なり。七十二、好む事なり。七十三、好む事なり。七十四、好む事なり。七十五、好む事なり。七十六、好む事なり。七十七、好む事なり。七十八、好む事なり。七十九、好む事なり。八十、好む事なり。八十一、好む事なり。八十二、好む事なり。八十三、好む事なり。八十四、好む事なり。八十五、好む事なり。八十六、好む事なり。八十七、好む事なり。八十八、好む事なり。八十九、好む事なり。九十、好む事なり。九十一、好む事なり。九十二、好む事なり。九十三、好む事なり。九十四、好む事なり。九十五、好む事なり。九十六、好む事なり。九十七、好む事なり。九十八、好む事なり。九十九、好む事なり。百、好む事なり。



八巻九



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a small square box containing the number '四' (4). The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It begins with a small square box containing the number '四' (4). The script is dense and fills most of the page.

Small handwritten mark or characters at the top left of the page.

Small handwritten mark or characters at the bottom left of the page.

そとにあらまきとせしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて  
てつきたるもまじくしめよとて

五 ちりもつ合戦ののり

さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて  
さかれはよむとてまじくしめよとて

やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて  
やと平一とてまじくしめよとて

戦

世

かたしるつらんまもをさへしてかたしるつらんまもをさへして  
うまいまじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
傍のまじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
けぢいようせんをせんせいのまじきくさくまじき  
やまのまじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
あけのまじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
内西のまじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき

として又月をよらんまもをさへしてかたしるつらんまもをさへして  
あけのまじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき  
まじきくさくまじきうまいまじきくさくまじき





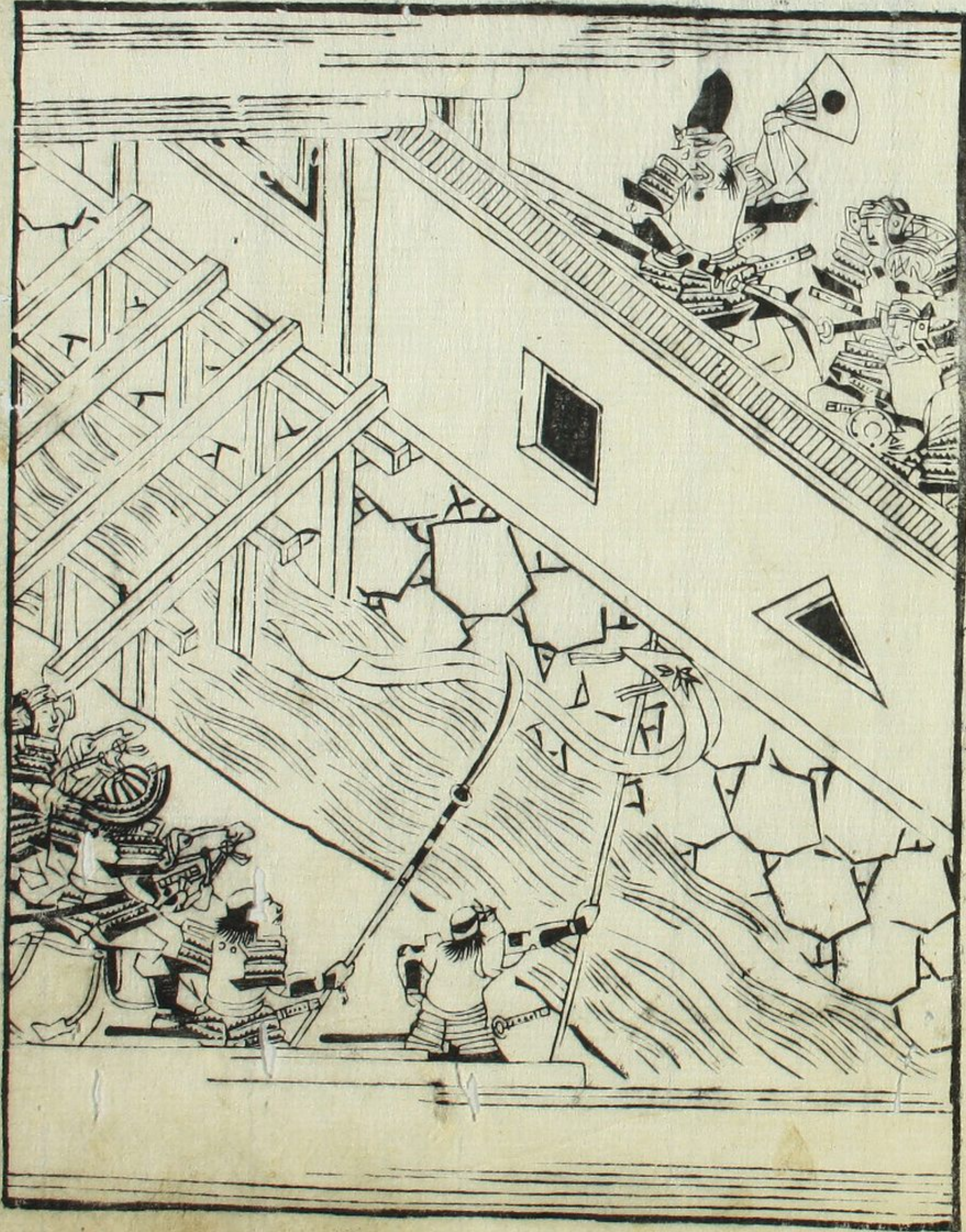






世にふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人の  
下りしるふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人  
ふたふかき徳をもちてはしる人なりしかんきんよむかふ人

八巻ノ十七



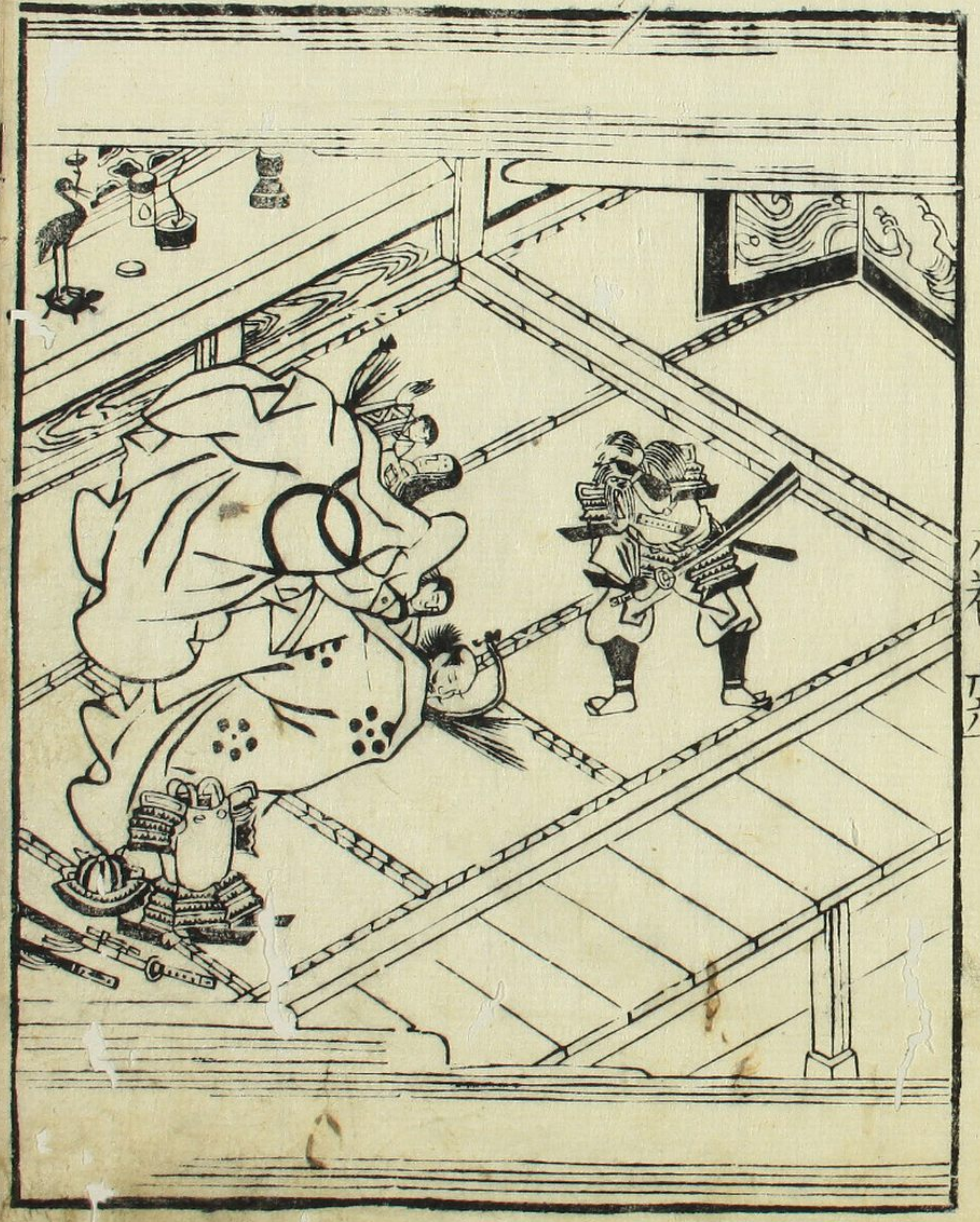


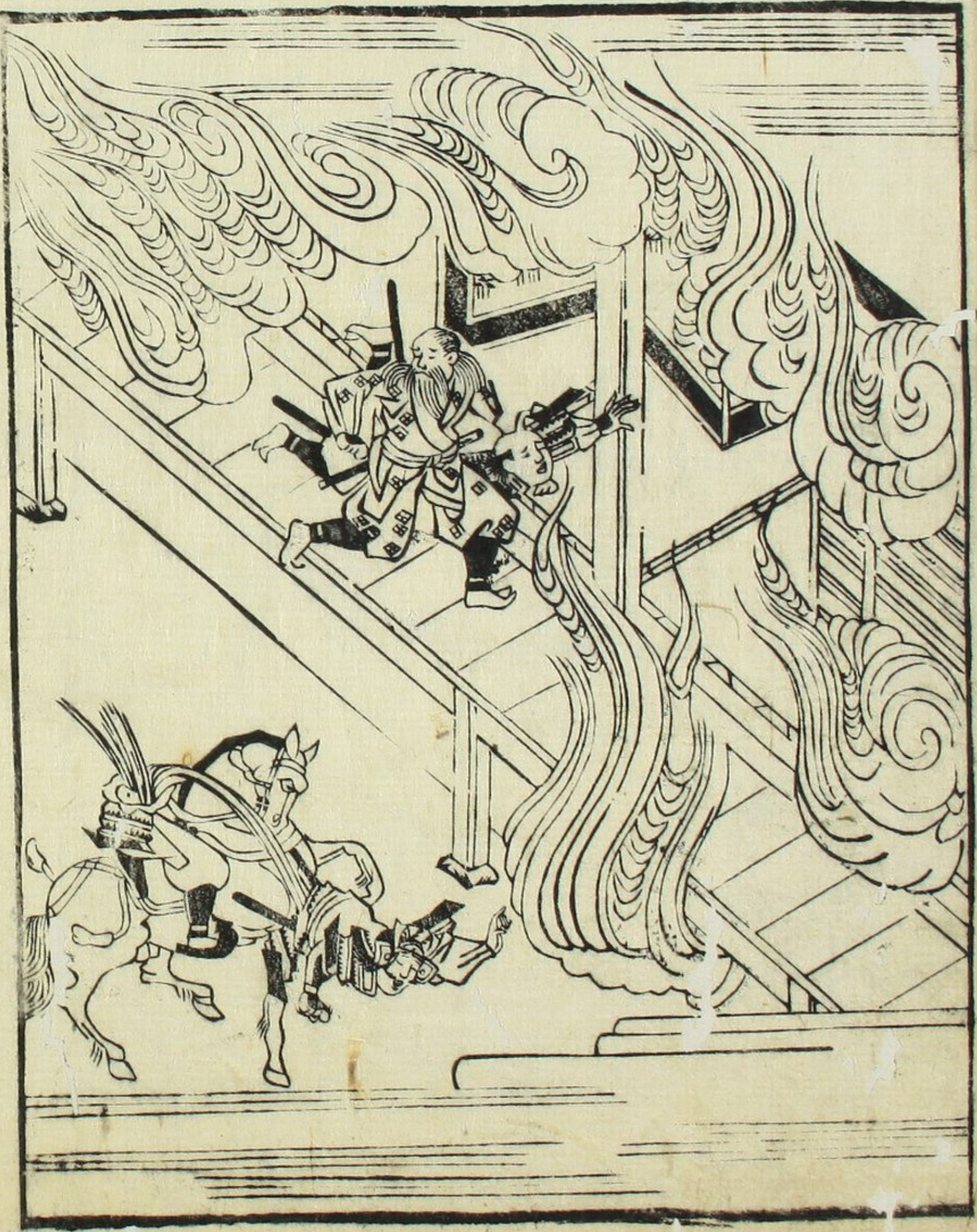




るも行りふ一西月やんきうくしに程なく御殿より  
 出だしののほよまゆらうししとまづ一とまづ出あとしん  
 えぬやうまうし一らうらうらひとまづ一かの月よしをびん  
 くれとわりらうらうらとまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 くれとまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 らうらうらの上まづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 そ目の大ゆまがえんおまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 おまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 らとまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 て出向のゆまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 え縁かゝるゆまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 ひとまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一  
 よらうら入村友あまのゆまづ一とまづ一とまづ一とまづ一とまづ一

八巻 九六





せいかうたれどいさくひかり今うかんにれらうさうあり。  
 もんきいとあなじくぬきりかうさうもかれかへび  
 やもあまもんせんあうもきくねわびづうかといひま  
 スーそれあまはちせめてれらひのくさむらま  
 いうまていひのあまのしりあひるれたりあひみ海  
 いけくさうつあまらうさうもあまそくさんざんこ  
 あまらうさうからさびとんせうあまあふさうた  
 せうとねらう次んあまのあまのあまのあまの  
 せうとねらうさうはさくさうらひあまのあまのあまの  
 ういさうあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 こくあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 ひよんあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
 ありあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

戦八

十一

ゆりていざんよからんまをばいひよるはるはる  
きてやましきりしとじざんされ

ハひで平がまもいしはいきうあや

わしてやまのうの刺友友のいびとせうぬら  
しとせ物うらひをしく是らうらうらうのちた  
みて下つしは敷経とうのちあす是かかんざいりも  
か兄弟とちりまうらんせんるれいさうぬらぬら  
しとせまいあれとやま平うきてあせするしひとら  
さうひ二人をかさうあしあしよらるる一人あのこと  
とらびとせうらてぞうけられくるやぞらんびやうとせう  
うやま平うたうべいせんさまをれせんらんのもま  
くらどのあさうれかたぬのあえぐれとせうはひのま  
わらうらとせうあさうてのままパーなれとせうあく

とせうわらうらとせうあさうらひかきとせうわらま  
まらうらにせういけいせうれりまをせうせうら  
とせうつづつとせうせいせうらにせうあさうら  
らとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
のうらとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
やと平たね下三百人くらびとせういけいせうら  
のうらとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
とせうあさうらとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
めれあ人あせとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
よとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
とせうあさうらとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
ふとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら  
れとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうらとせうあさうら



んまのい...  
と...  
ん...  
わ...  
あ...

義経記卷中八終

寛文拾  
庚戌  
初夏

吉野屋惣兵衛

